

劇場事業課 舞台事業・広報係
森下 響子 (令和2年度入社)

多様な価値観に触れ、豊かに繋がる社会の
実現に向かう喜びと責任感



ある日のスケジュール

- 8:30 出勤
- 9:00 小学校アウトリーチへ出発
- 10:30 アウトリーチ開始
- 12:30 終了、アーティストとのフィードバック
- 14:00 劇場へ戻りお昼休憩
- 15:00 次年度事業の企画書作成
- 17:00 退勤
一日のご褒美にスタバのコーヒーを買って、バレエのレッスンへ♪



一財団を志望した理由を教えてください

幼い頃からバレエをやっていて、大学も舞踊学を専攻していたのですが、就職活動を目前にどうしようかな...と思っていた時、劇団☆新感線さんの舞台を初めて観て、やっぱり舞台に関する仕事したい!と思いました。北九州芸術劇場は、演劇・ダンス共に地方ではなかなか見られないラインナップを上演している劇場だったので、ここで舞台制作の仕事が出来たら面白いだろうな、と思い受験しました。

一担当業務について教えてください

劇場自らが企画・製作を行う「自主事業」に関する業務を担当しています。自主事業は、劇場で作品を鑑賞いただく公演事業、アーティストと共に地域の様々な場所へ出かけ、芸術文化の芽を育む学芸事業、そして劇場オリジナルの作品創作を行う創造事業、の3つを軸に展開していて、私は主に公演事業と学芸事業を担当しています。公演受け入れのための様々な手配や当日の運営～お客様対応、地域で行うワークショップ等の企画立案や実施運営などを行っています。

一仕事のやりがいや面白さはどんな所ですか

とにかく色々な方に会えます。アーティストやスタッフの方、各地の劇場の方、学芸事業では教育や福祉など異なる領域の方と接する事も多く、自分の中になかった様々な価値観に触れる事はとても刺激的です。またワークショップでは、芸術を通して人と人とが繋がっていく瞬間を数多く目にします。そうして人や社会が繋がる事はとても豊かな事だなと思いますし、そういった場を自ら作る事にやりがいも感じます。



一印象に残っている出来事がありますか

初めて担当した公演が海外からの招聘だったのですが、コロナの只中でアーティストが来日出来るのか、公演が実施出来るのかと、日々政府の情報を確認したり、保健所ともやり取りをしたり、怒涛の日々でした。無事実施が決まり劇場でお迎えしてからも、海外のカンパニーだったので、もちろん通訳の方もいらっしゃいましたが、時には英語や身振り手振りを交えてコミュニケーションを取ったり、本当に無我夢中で駆け抜けた記憶があります(笑)。でも終演後、お客様の熱狂的な拍手を客席の後ろで体感しながら「私はこういう仕事に就いたんだな」と、大きな充足感に包まれました。

一職場自慢、これから受験される皆さんへのメッセージをお願いします!

研修の一環で公演を観たり、時には視察で他の劇場に行ったり、日常的に日本トップクラスの舞台芸術に触れられる事は本当に貴重だと思います。基本的に業務は自分でコントロールしていくので、メリハリをつけてプライベートを楽しんだり、まとまったお休みを取る事も可能です。暮らし方や生き方など様々な事を考えたコロナ禍を経て、改めて芸術は社会に必要なと感じています。そう思っていただけのような仕事を、私たちもしなければと思います。芸術や感動に触れながら、誰かが喜び元気になったりする瞬間に立ち会えたり、自分自身も励まされたりする事はなかなかないと思うので、何か面白い事やってみて、新しい世界を見てみたい、という方はぜひ一緒にお仕事が出来たら嬉しいです。

